



A Road to Peace : Listening to One Another 互いに耳を傾けて平和への道を



平和旬間 2022
10 Days for Peace

コロナウイルス感染拡大により、予定を変更、中止された行事がありました。

◆**姫路地区西ブロック** 8/7(日) ブロック行事から各小教区での主日のミサ説教に切り替え開催した。小教区の枠をこえて交流を楽しみにしていただけに残念という声が多かった。真の平和への道を人として歩み通したイエスに習うべく、今年のテーマに沿ってキリスト者として「聴く」事の大切さを聖書を通して学べるよう計画した。

◆**姫路** 8/6(土)～15(月)「日本カトリック平和旬間」が定められた経緯を紹介し、7月に信徒から平和の祈り(共同祈願)を募集した。日本語だけではなくベトナム語の祈りも多く寄せられ、祈願文は旬間の期間中、毎日のミサの中で祈り繋いだ。



◆**仁豊野** 8/7(日) 平和祈願ミサと7月中旬より核兵器に関する資料を掲示し、それに対する思いを募集した。また7/31と8/7にはアニメ「いわたくんちのおばあちゃん～ぼく、せんそうせんけえね～」を上映。感想を分かち合った。戦争体験者が高齢化する中で若い世代へ伝える対策が必要。未来を担う子どもたちへ働きかけ、ポスターはベトナム語翻訳に取り組んだ。



◆**佐用** 8/6(土)・9(火)・15(月) 広島、長崎原爆の日、終戦の日に教会に集い、鐘を鳴らし、「平和を求め祈り」を唱えた。人は「なぜ戦争へと向かうのか」を、あらためて、問い直した平和旬間だった。「長崎原爆の日」には、隣接する作用マリア幼稚園園児と先生方が参加。その笑顔と祈りはまさしく「平和アピール」だった。



◆**東ブロック** 8/7、14、21、28(日) 4回に分けて平和祈願ミサを開催。テーマは「違いを認め合い、一人ひとりの命を大切に、戦争のない平和な世界にしよう」。チラシ、教会週報で信徒全員にテーマ及び内容を知らせ参加できるようにした。外国人や子どもたちにも積極的に呼びかけ、「平和への祈り」を作成した。



◆**洲本** 8/7(日) 12の平和テーマに即した共同祈願を信徒に呼びかけた。よびかけは英語でも行い、フィリピン人もいっしょに祈ることができた。事前準備から多くの人に参加してもらうことで過去の戦争を顧み平和を希求する思いをひとつにすることができた。

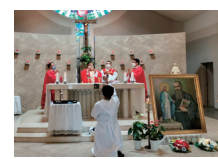


◆**神戸中央** 8/7・14(日) 特別なイベントは出来ない判断、平和旬間の周知と家庭でも祈ることができるように祈りのシートを作り、あわせて2回のミサ前にみんなで祈った。ウクライナとロシアのこともあり平和の意味、大切さを以前より感じている。

◆**夙川** *平和旬間日記8/6(土)～15(月)、「家族とともに平和を考える図書コーナー」開設 *7/17(日)～9/4(日)平和祈願ミサ *8/7(日)ビスカルド篤子さん(シナピス)の講演 Line 連絡網、Google フォーム、QRコードなどを使って周知や投稿の便を図り、自宅はもちろん海外を含む遠隔地から参加できるようにし、講演動画を教会ホームページに掲載している。



◆**仁川** 8/6(土)～7(日) 8/14(日) 平和祈願ミサ「本土復帰50年」の沖縄が今もなお抱える苦悩を、「日本の問題」として感じてほしいという思いで、沖縄の小学生が作った「平和の詩」を社会活動委員が朗読した。「平和旬間」の意義を伝え、「過去を振り返り、将来に対して平和を築く責任を担う決意の時」にしたいと願った。



◆**園田** 8/7(日)「戦争の体験」留永越里さんはベトナム戦争を体験し、知り合いと家族でボートに乗ってベトナムを脱出。途中で様々な苦難に遭ったが、ギリシャ船に発見され、福島県いわき市小名浜港に上陸しその後帰化。厳しく難しい体験を1時間ほど語ってくださった。

◆**伊丹** 8/14(日) テーマ「優しい世界は些細なこと」から篠原富美子さんの講演(キャリアコンサルタント)傾聴ボランティアを長年継続。戦争やパンデミックを止めることは難しくても、一人ひとりが「相手に耳を傾ける(傾聴)」ことから優しい世界、平和の実現に繋がる。「傾聴のメリット」「傾聴のコツ」など日常でもすぐに役立つ話だった。8/15のミサでは特にウクライナとロシア両国への早期の平和を祈願した。



◆**尼崎** 8/7(日) 平和に関する祈りのパンフレットを配布した。ミサ後、コルバ記念館の館長だった小崎登明修道士(聖母の騎士修道院/長崎原子爆弾被爆者)の話(YouTubeにアップロードしたものを鑑賞)。今後、小教区同士が合同web講演会なども開催できるのではないかと期待する。



◆**武庫之荘** 8/14(日) 信徒が一致して平和を祈りながら協力してオブジェを作成した。平和を単に戦争のない状態と捉えるだけでなく、日々の生活の中で「傾聴」「尊重」「相手を理解しようとする態度」「誠意」を実行し、平和を実現する「対話」を行えるよう、イエスが示した「平和」とはどのような状態であるのかを理解できるようにとミサ説教でモラレス神父より話を聞いた。



◆**高槻** 7月の主日のミサで「世界平和の日2022 教皇メッセージ」を配布「祈りの短冊」を呼びかけ、8/15(月)のミサで奉納した。寄せられた祈りの多くは日常で小さな平和を築いていくことが、真の平和の実現に繋がるという思いが一致していた。自宅待機者や他の教会の人とも共有できるように教会のホームページにアップできないかとの意見もあった。



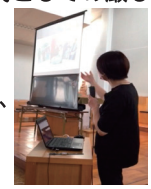
◆**池田** 8/7(日) 平和祈願ミサ 皇基幸神父(御受難会)による講話。ミャンマー滞 in 時を振り返り、クーデター以降の平和からほど遠い状況を見て、今の思いを語っていただいた。話だけでなくスライドもあり、より実際経験された活動の様子がわかった。



◆**吹田** 8/14(日) 平和祈願ミサ 司式:井田明神父 霊的花束を作成 大きな虹は希望の架け橋と平和への道、ひまわりと青空はウクライナ国旗を現した。祈りの鶴は、戦争で亡くなった方々への鎮魂の祈りを込めた。戦後77年を迎え、原爆が投下された広島、長崎を思い、真の平和への願いがこめられたメッセージが多かった。

◆**北地区** 8/13(土) 7人の方から『キリスト者としてのあなたにとっての平和』というテーマでスピーチをしていただく予定だったが、中止となった。互いに耳を傾けて平和への道を少しでも切り開いていけるようにと願いつつ、平和への思いを語っていただける日を待ち望みたい。平和祈願ミサのみ開催。司式は酒井俊弘補佐司教(写真ページ左上)

◆**大東** 8/7(日) ミャンマー難民自身から日本では報道されないミャンマーの現状や難民としての厳しい状況をお話しいただく予定だったが、事情によりお越しいただけず、社会活動委員会よりミャンマーをテーマとしたいきさつや歴史、厳しい現状について話し、またシナピスのビスカルド篤子さんから難民をめぐる問題点、私たちにできることを話していただいた。平和の祈りのカードを配布した。



◆**枚方** 8/7(日) 信徒の体験(空襲・広島)と「平和と一致」について分かち合いを深めた。他人の戦争の話や言葉だけの平和ではなく、戦争と隔ての壁の根元を自分事として考える時を持てた。



◆**堺** 8/7(日) DVD「戦争童画集～75年目のショートストーリー NHK放送史」視聴。分散ミサ継続中ではあるが、それなりの参加があった。分かち合いは出来なかったが記憶が薄れゆく戦争の歴史を知る機会となった。



◆**金剛** 8/7(日) DVD「夏服の少女たち」上映。広島で原爆が投下され爆心地から800メートルの地で学徒動員中に被爆した広島第一高等女学校1年生220人の少女たちの話。それとあわせて広島出身の方のリアルな話も聞き、平和を考える機会になった。



◆**枚岡** 7/24(日) ミサ説教でウクライナ人道支援ポラード在住の兵頭博さんの話。7/26(火) 直接ポーランドとリモートでつなぎ、現地の方々と質疑応答。8/7ミサ説教時、漆原比呂志さん(JLMM)によるカンボジアの話も聞いた。また、旬間期間中、アシジの聖フランシスコの祈りを配布し、10日間祈った。



◆**玉造** 8/10～15 戦争の写真と絵本展示7/24(日)～千羽鶴作り8/7(日) 戦争体験者の話を聴く。今回初めて青少年委員会と合同で開催。多数のアイデアが出たこと、子どもや保護者の参加につながり良い時間となった。



◆**住之江** 8/7(日) テーマ「私は平和を築くためにどう行動するか」シベリア抑留者の証言動画「行く先も分かんずい」を視聴。太平洋戦争、ベトナム戦争、朝鮮戦争の体験談、体験者または親族から見聞きしたことを話していただいた。その後分かち合い、平和への決意を作成し、聖母被昇天ミサで奉納。爆撃で破壊された大阪の惨状を伝える写真パネル展示も行った。



◆**貝塚** 7/31(日) ミサの中で、司祭が作成したビデオ(13分)を上映。過去の戦争ではなく、あるアフガニスタンの難民家族の状況を例にあげ、教主の具体的な言葉を用いて互いに耳を傾け平和への道を考えて。



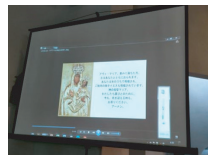
◆**熊取** 7/31(日) ビデオ鑑賞と司祭の話 テーマ:「難民の家族の絆、みまもること、平和の道へ」アフガニスタンから日本への退避者についてのDVD鑑賞。平和について考えるきっかけに、7月からミサの共同祈願で「聖書と典礼」パンフレットに3項目を追加。1～2項目は平和を願う祈りとした。日本政府の不十分な難民受け入れの対応と実状との差を感じながら、祈ることしかできないことを痛感した。



◆**紀の川** 8/7(日) 平和祈願ミサの説教において平和を考える内容としミサの中で「平和の祈り」を唱えた。コロナで講演会が中止となったが、計画や準備、事前に告知することによって教会はいつも平和を考え作り出すことを推進していると言う意識を確認出来た。



◆**泉佐野** 8/7(日) 2022年度、平和旬間テーマ「互いに耳を傾けて平和への道を」に向けてYouTube動画「ウクライナの平和のための祈り」の中のロザリオの祈り、一玄義を、各ミサの参加者全員で唱えながら、全世界の平和を願いました。コロナ感染の影響で、岸和田地区ユースの友ヶ島での平和学習が延期になり、コロナが落ち着き、実施されることを期待します。



◆**和歌山紀北** 8/7(日) 互いに耳を傾けることの大切さと難しさについて、司祭の話や分かち合いを通して考えた。古屋聖堂、屋形町聖堂が発表。第二次世界大戦時のロシアの従軍女性500人あまりの証言を聴き「戦争は女の顔をしていない」を書いたスヴェトラナ・アレクシェーヴィチに触れ、あらゆる違いを知り、それを乗り越えていける視点を持つことを目指した。



◎詳細は冊子にして後日各小教区へお送りいたします。
(シナピス事務局)